

大都市の都心辺縁部における駅まち空間再構築

東京・大阪から都市の価値創造を実現する駅まちリノベーションを！



新旧が織りなす

クリエイティブネイバーフッド 十三



常に新陳代謝するまち

トランスフォーメーション・フィールド 自由が丘

日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC) について

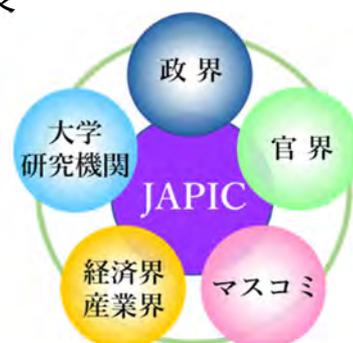
沿革 昭和58年4月 社団法人設立

会員 団体・企業・自治体・大学・NPO等43業種約220社で構成。
年間延べ約1万人が国益・公益的立場で政策提言活動。

会長 進藤 孝生 日本製鉄(株)代表取締役会長

副会長 宮本 洋一 (一社)日本建設業連合会 会長
今井 誠司 (株)みずほフィナンシャルグループ取締役会長
垣内 威彦 三菱商事(株) 代表取締役会長
中村 英夫 東京都市大学 名誉総長

活動目的 民間諸産業による業際的協力と産学官の交流を通じ、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生。



「国土・未来プロジェクト研究会」の概要

最高顧問 中村 英夫<JAPIC副会長・東京都市大学名誉総長>
 委員長 藤本 貴也<パシフィックコンサルタンツ(株)特別顧問>
 委員 約50団体・約120名<民・官・有識者により構成>

設立 2015年8月

活動概要

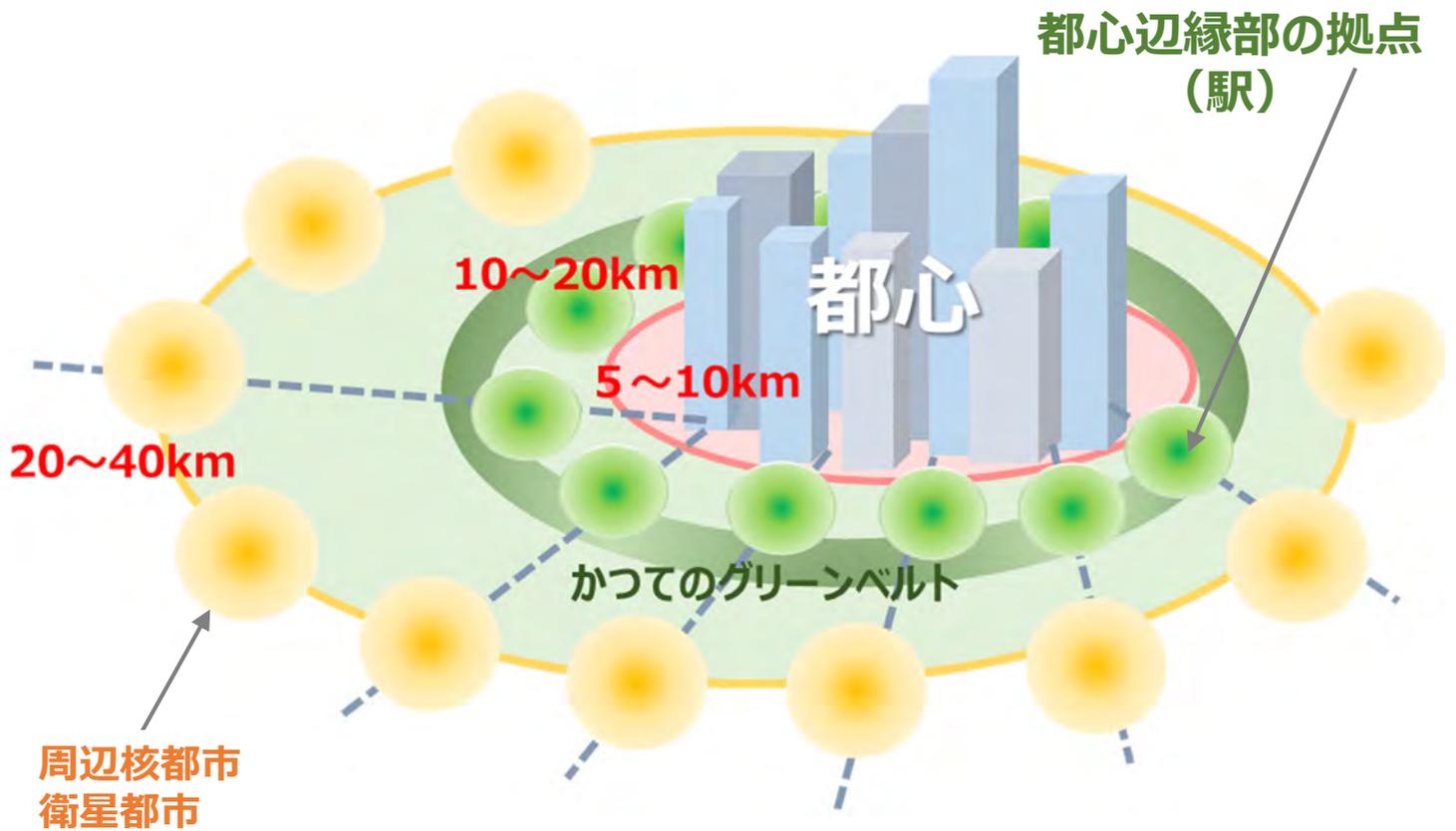
- ・国土の活性化に資するハード・ソフト両面にわたる具体的なプロジェクトの提言・推進を行う。
- ・行政等、関係団体へのヒアリングや独自検討を行い、プロジェクトの実現に向けて取り組む。

「国土造りプロジェクト構想」(12の重点プロジェクト)

<http://www.japic.org/information/240.html>



大都市の「都心辺縁部」とは



東京の都心辺縁部における拠点駅



出典：NTTインフラネット株式会社

大阪の都心辺縁部における拠点駅



都心辺縁部 駅まち空間の課題





森記念財団 都市戦略研究所
世界の都市総合力ランキング 2023
 (GPCI : Global Power City Index)



出典：森記念財団都市戦略研究所ホームページ https://www.mori-m-foundation.or.jp/pdf/GPCI2023_summary.pdf

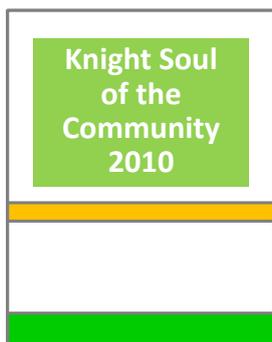
世界の都市総合力 分野別ランキング

経済		研究・開発		文化・交流		居住		環境		交通・アクセス		
1	New York	371.1	New York	206.5	London	367.6	Paris	390.0	Stockholm	228.7	Amsterdam	229.2
2	London	336.2	London	181.4	New York	259.4	Madrid	380.9	Copenhagen	224.2	Frankfurt	217.6
3	Beijing	309.4	Los Angeles	154.9	Paris	250.7	東京 3	367.7	Geneva	217.6	New York	216.1
4	Singapore	308.3	東京 4	143.4	Dubai	237.5	Barcelona	365.6	Helsinki	210.7	London	215.9
5	Zurich	302.7	Boston	137.7	東京 5	237.5	Vienna	360.0	Vienna	210.5	Paris	210.4
6	Dublin	298.7	Seoul	136.4	Istanbul	207.2	Berlin	359.3	Melbourne	203.1	Dubai	192.5
7	San Francisco	291.4	San Francisco	117.7	Madrid	183.9	Frankfurt	358.1	Sydney	202.1	Singapore	183.8
8	Geneva	274.6	Chicago	113.0	Moscow	176.5	Amsterdam	357.9	Zurich	201.5	東京 8	183.3
9	Washington, DC	271.3	Paris	108.3	Singapore	174.9	London	357.9	Berlin	192.2	Shanghai	175.5
10	東京 10	270.1	Hong Kong	107.4	Berlin	173.4	Stockholm	357.3	Vancouver	189.8	Copenhagen	174.5
12	Amsterdam	259.1	Beijing	93.2	Bangkok	165.3	大阪 12	354.8	Singapore	180.9	Istanbul	166.3
16	Paris	253.1	Melbourne	83.1	Mexico City	156.2	Kuala Lumpur	349.9	東京 16	173.8	Hong Kong	152.6
18	Toronto	249.2	大阪 18	69.7	Vienna	148.9	Toronto	346.3	Toronto	169.0	Zurich	148.8
25	Helsinki	233.6	Stockholm	49.5	大阪 25	110.0	Jakarta	333.1	Milan	153.5	Helsinki	131.9
37	Kuala Lumpur	177.3	Madrid	31.2	Frankfurt	80.5	Tel Aviv	315.7	Washington, DC	139.9	大阪 37	109.3
38	大阪 38	174.4	Frankfurt	30.4	San Francisco	79.9	New York	302.5	Mexico City	138.3	Vancouver	108.7
39	Istanbul	164.4	Dubai	27.3	Vancouver	76.8	San Francisco	300.8	Beijing	137.3	Tel Aviv	107.8
40	Jakarta	157.0	Sao Paulo	23.2	Jakarta	73.9	Boston	300.1	Johannesburg	133.4	Beijing	103.7
41	Moscow	153.1	Bangkok	21.3	Mumbai	73.2	Mexico City	296.4	大阪 41	129.6	Mexico City	102.6

出典：森記念財団都市戦略研究所ホームページ https://www.mori-m-foundation.or.jp/pdf/GPCI2023_summary.pdf

何が人々をPlaceにひきつけるか

- 人々をPlaceにひきつける要因（磁力）は、「**交流の機会**」「**地域の寛容さ**」「**空間の美しさ**」の3つが特に重視される（米国“Knight Foundation”調査結果より※1）



1. 交流の機会 (Social Offerings)

人と出会うのに適した場所、芸術文化の機会、交流イベント、活気あるナイトライフなど

2. 地域の寛容さ (Openness)

高齢者、子育て家族、LGBT、若者、移民、DINKSなどに心地よい場所であることなど

3. 空間の美しさ (Aesthetics)

公園、緑地、遊び場、路地など

- 優秀な（若い）人材（を抱える企業）は**アメニティ**（**リテールや飲食、医療、教育、娯楽、公園、公共交通へのアクセス等**）が充実し、**活気ある都市空間を求めている**（米国“Smart Growth America” まちなかへオフィス移転した企業動向調査結果より※2）



出典：「第6回 都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会 参考資料2」より一部改変（国土交通省）<https://www.mlit.go.jp/common/001292410.pdf>

※1 the Knight Foundation “Knight Soul of the Community 2010”

※2 Smart Growth America, “Core Values: Why American Companies Are Moving Downtown” (2015)

都市の競争力向上のための戦略

米ブルッキングス研究所の調査結果 「イノベーション地区※」の興隆(2014)

1. 公園、広場、街路等の公共空間が、**人々の出会いやネットワーキングを刺激したり、柔軟にイノベーションの実験が可能**なようにデザインされていること
2. 民間の建築物や空地は、シェアオフィス、シェアラボ、スタートアップ向けの安価な施設のほか、**娯楽やカフェ、レストラン等、共有が可能で多様な機能を持っていること**
3. **地域全体が一体化する様**、フェンスや壁などを取り除き、代わりに**歩道や歩行者優先の街路、賑やかな公共空間で繋がっていること**

※起業家、スタートアップ、教育機関、ミクストユース開発、自転車シェアリング、金融機関等が交通とデジタル技術でつながる地区。例えばバルセロナ、ベルリン、ロンドン、モントリオール、NY/ブルックリン、ポートランド、サンフランシスコ、シアトルなど。

人口減少が続く日本の大都市が、競争力を向上するためには、

「イノベティブ人材」や「クリエイティブ人材」が魅力を感じる場 の提供

「人々がネットワーキング」でき、建物やオープンスペースが「多様な機能」を持ち、「地域が公共空間でつながれ一体化」
すること

出典：「第6回 都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会 参考資料2」より一部改変（国土交通省）<https://www.mlit.go.jp/common/001292410.pdf>

東京や大阪の国際競争力向上のためには 「都心辺縁部の魅力向上」が不可欠



ケーススタディ その1

新旧が織りなす クリエイティブネイバーフッド 十三



駅東商店街の素敵なバル



十三の象徴・レトロな横丁



梅田摩天楼を臨む 淀川河川敷のオアシス空間



国道176号跨線橋で分断された駅前空間

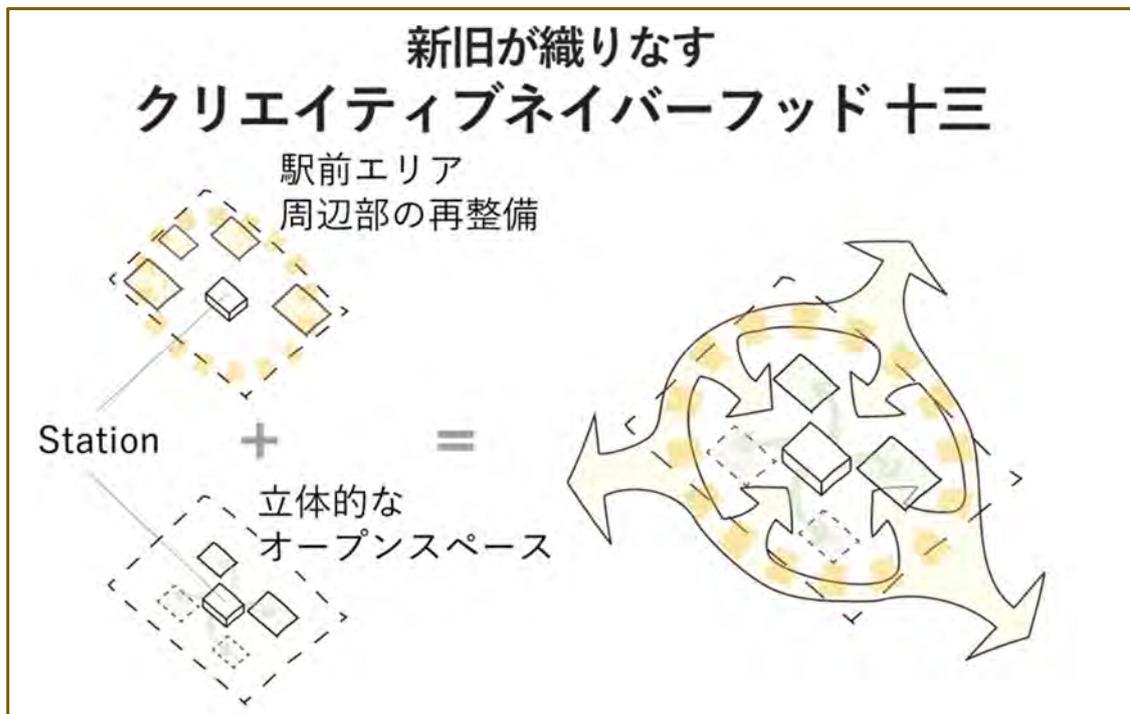


国道176号跨線橋で分断された駅前空間



十三 駅まち空間再構築のねらい

- ・「カオス文化」と「新しい街」の融合によるイノベーションの創発
- ・交通ハブ機能の強化、地域分断の解消
- ・豊かな緑と水環境の創出、オープンスペースの拡充



十三 駅まち空間の街区整備イメージ

1. 十三駅複合ターミナル

- 十三新駅（なにわ筋連絡線／新大阪連絡線）
- サンクンガーデン、デッキ、モール
- 次世代交通ターミナル

2. 交通・交流拠点

- 交通ターミナル（鉄道×舟運×バス）
- 国道176号歩行者専用化・広場化
- 多世代交流拠点、淀川オアシス空間
- 防災拠点（アーバンキャンプ）
- 水と緑の回遊空間（デッキ、街路、屋上緑化）

3. クリエイティブ街区

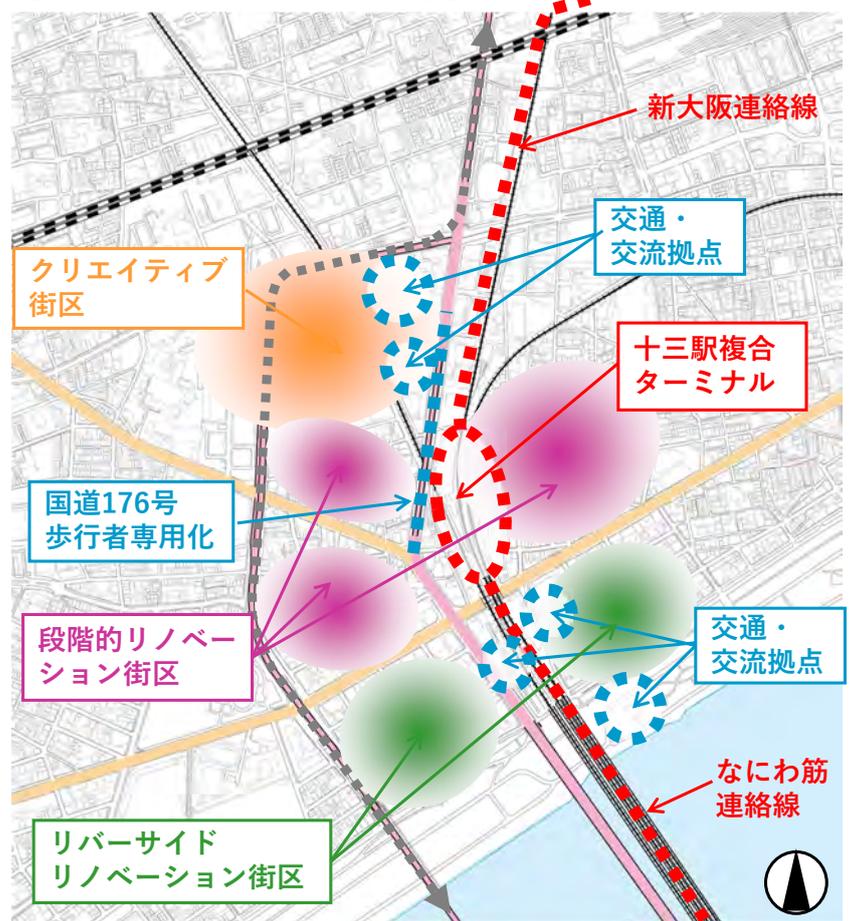
- 複合コーポレートキャンパス（オフィス、大学、住宅、研究施設、MICE、緑地）
- 低層環境調和型開発
- 多様で先駆的な企業を誘致

4. 段階的リノベーション街区

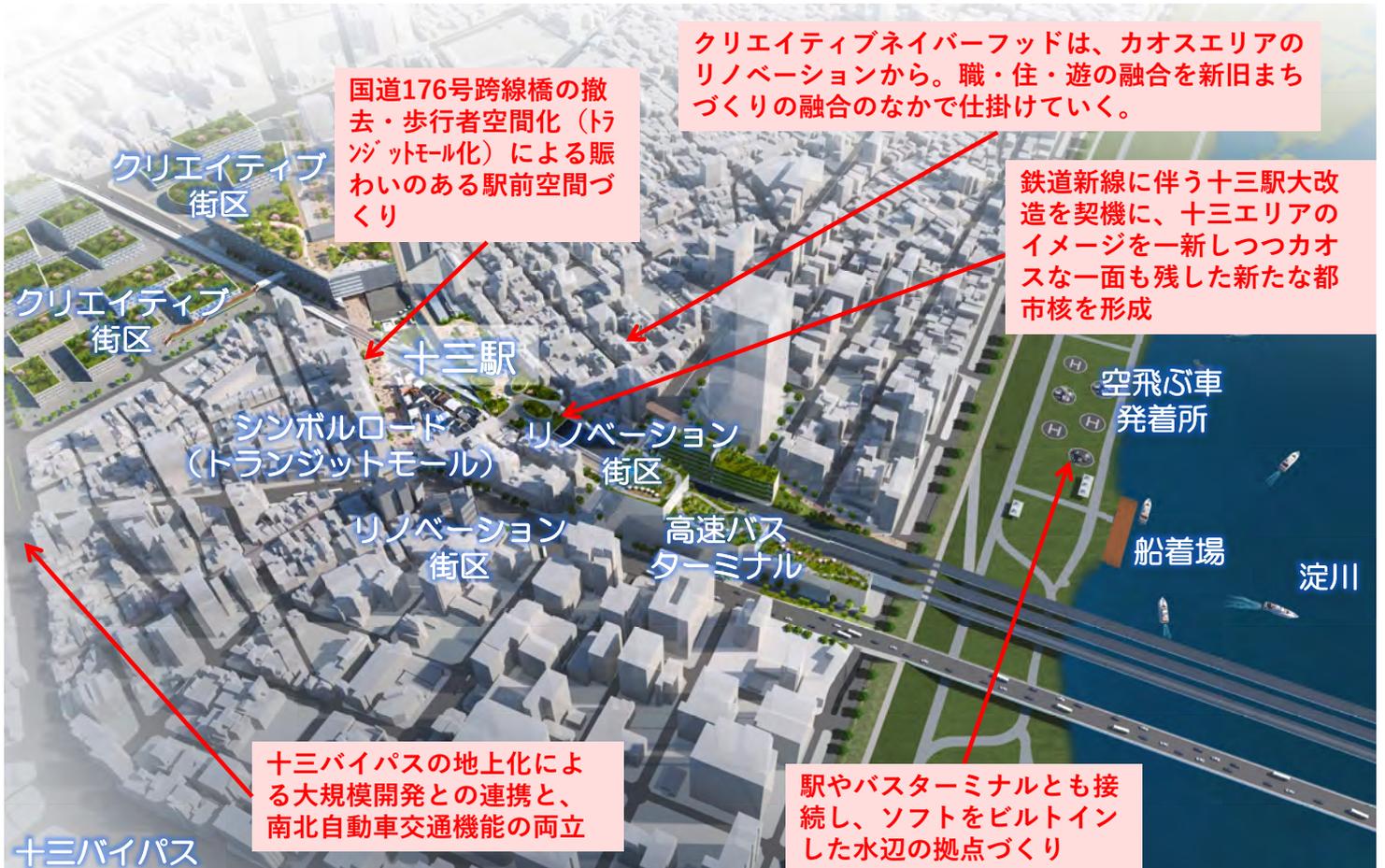
- クリエイティブ・ネイバーフッド（長屋／商店街リノベーション）
- 街路の高質化、狹隘道路の拡幅

5. リバーサイドリノベーション街区

- スタートアップ向けオフィス／ホテル
- 集合住宅

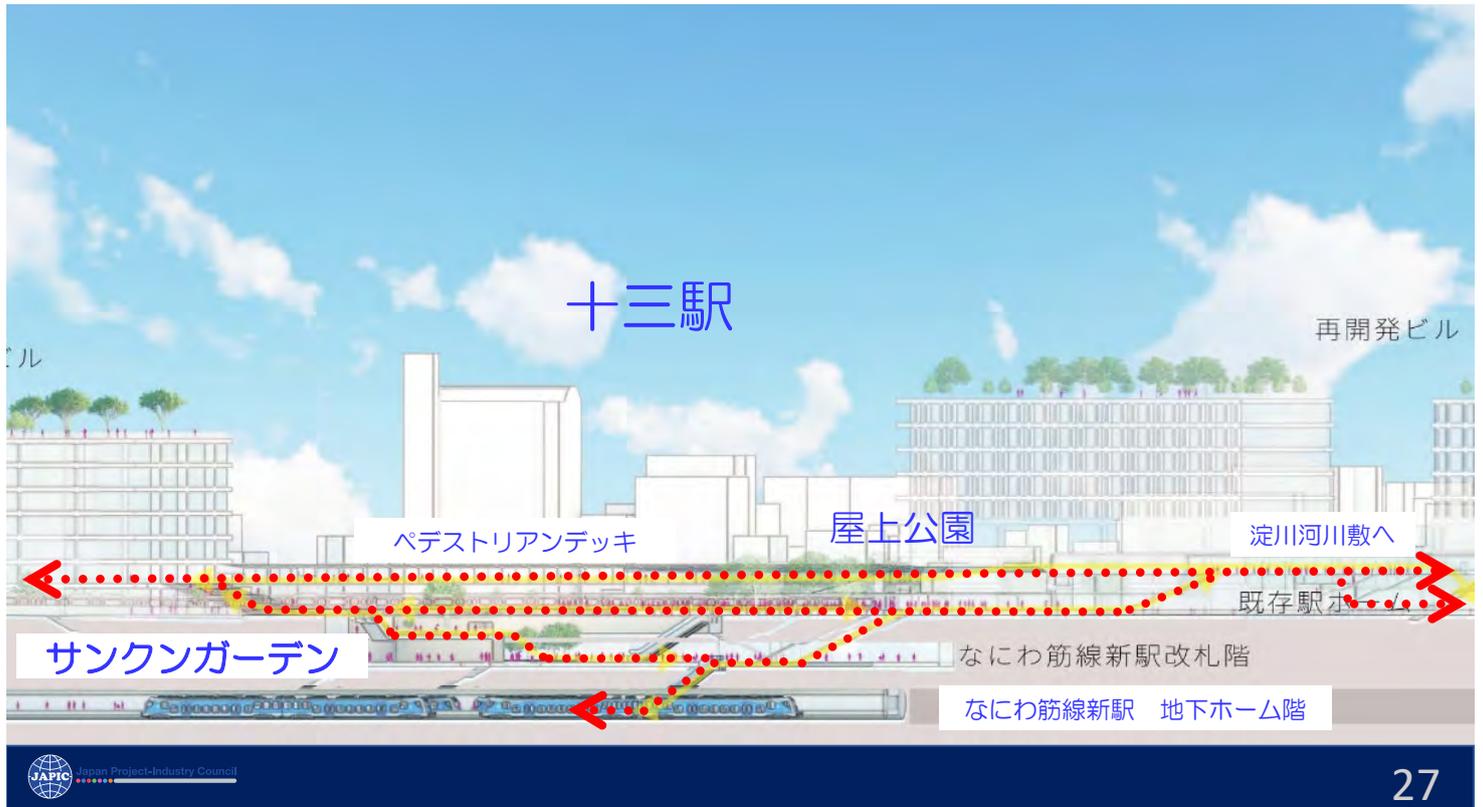


十三 駅まち空間の提案



十三 駅まち空間の提案

サンクンガーデンの大空間と一体になった屋上公園が
複雑で立体的な歩行者動線を分かりやすく案内
都市空間の変化を促し、新たな都市の骨格を形成します

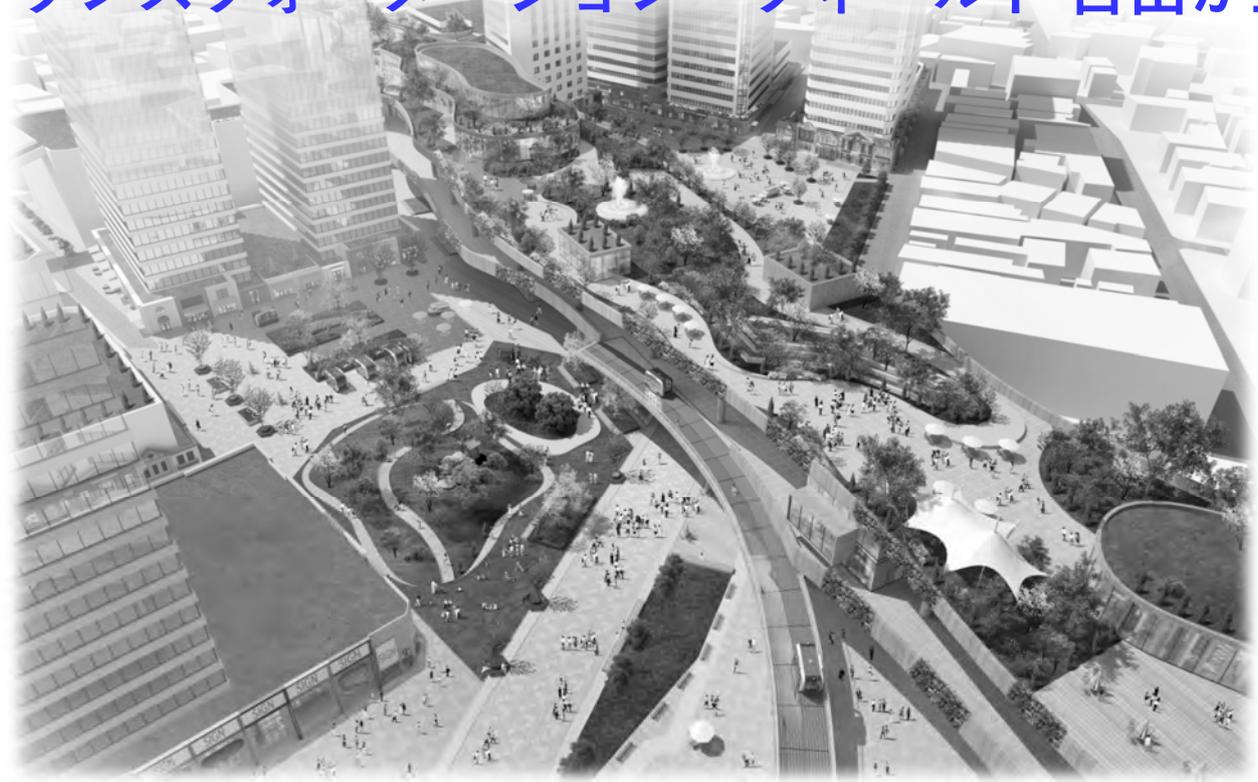


新旧が織りなす クリエイティブネイバーフッド 十三



常に新陳代謝するまち

トランスフォーメーション・フィールド 自由が丘



自由が丘駅の位置



東京 山手線ターミナル駅

ターミナル駅から

- ① 急行等で1つ目の駅
- ② 急行等で2つ目の駅
- ③ 急行等で3つ目の駅

私鉄急行等停車駅

- ① 京浜急行
- ① 東急東横線
- ① 小田急電鉄
- ① 京王電鉄
- ① 西武新宿線
- ① 西武池袋線
- ① 東武東上線
- ① 京成本線

首都高中央環状線

首都高その他

自由が丘駅
 渋谷駅から
 急行で
 3つ目

自由が丘駅の立地ポテンシャル

渋谷：Google、DeNA
 二子玉川：楽天
 綱島：アップル
 ほかにキヤノン、NECなど
 研究開発拠点が近くに立地



自由が丘のまちの魅力



自由が丘のまちの魅力



自由が丘のまちの課題



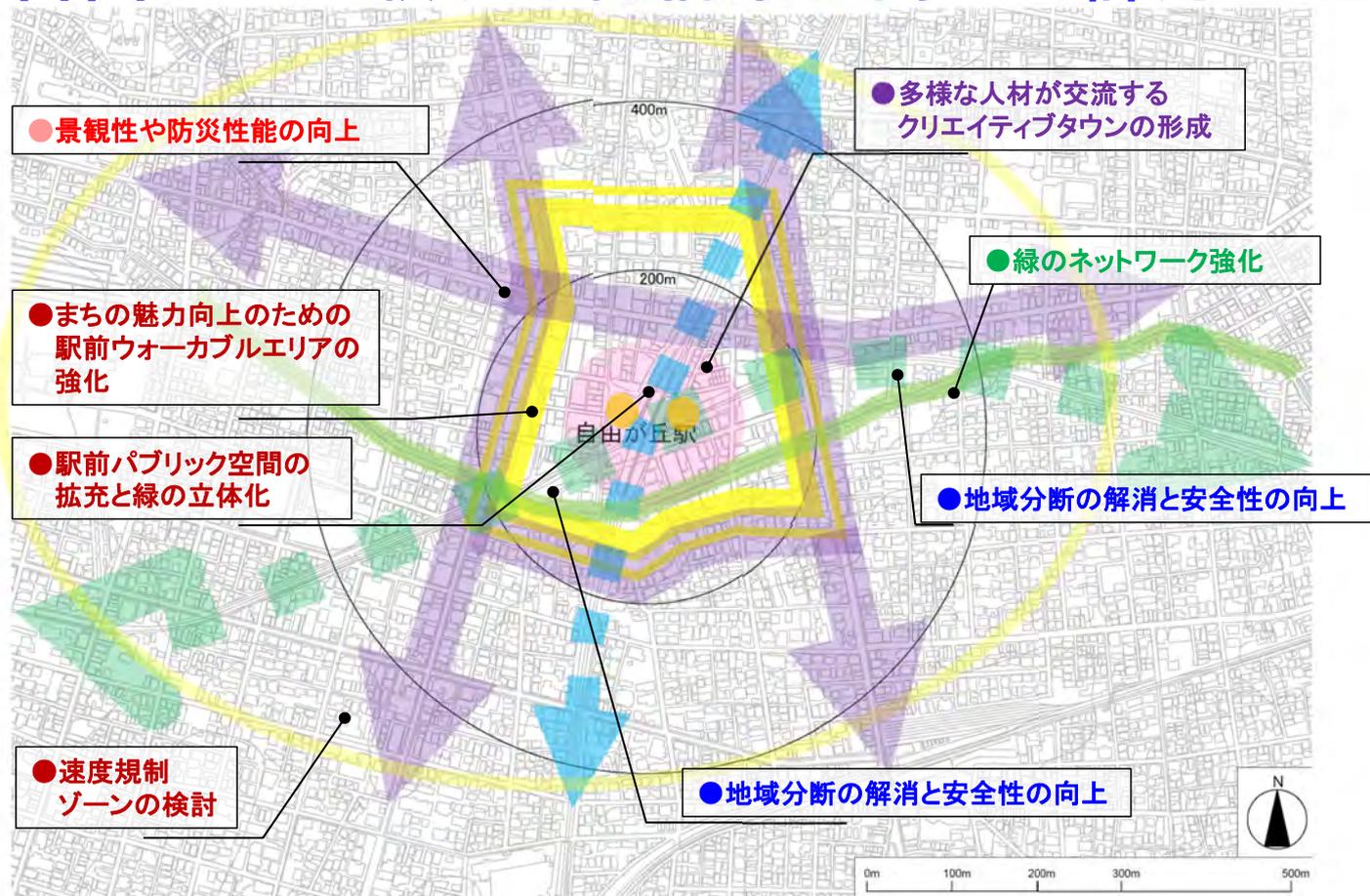
自由が丘のまちの課題



自由が丘のまちの課題



自由が丘 駅まち再構築に向けた課題整理



自由が丘 駅まち空間再構築のねらい

常に新陳代謝するまち トランスフォーメーション・フィールド 自由が丘

まちの方向性

自由が丘のまちの歴史文化を継承したまち

⇒広域的商業拠点と融合した**住みたく、居心地が良いまちであり続ける**

- ・広域的商業拠点として多くの人から好きなまちといわれる自由が丘
- ・その形成の歴史を継承し、心地よいまちの先端の姿を表現してきた自由が丘は、ここに住み、暮らす、働くことに誇りをもてるまちであるべく、これからも時代の要請に正面から応える

クリエイティブ人材を吸引するチャレンジできるまち

⇒周辺大学とも連携し、様々な機能・施設導入による**職住遊融合するクリエイティブタウンの形成**

- ・自由が丘はその生活環境やまちの魅力から、多くの名士もこのまちに移り住み、まちそのものを様々と発信した
- ・商業、住宅以外の新たな多様な機能・施設(オフィス・ワークスペース、文化・交流施設、宿泊等)を導入し、多世代・他地域に魅力を発信しつづけ、チャレンジングな人をまちに吸引し、交流を拡大・深化させる

緑があふれ、駅とまちが一体となるまち

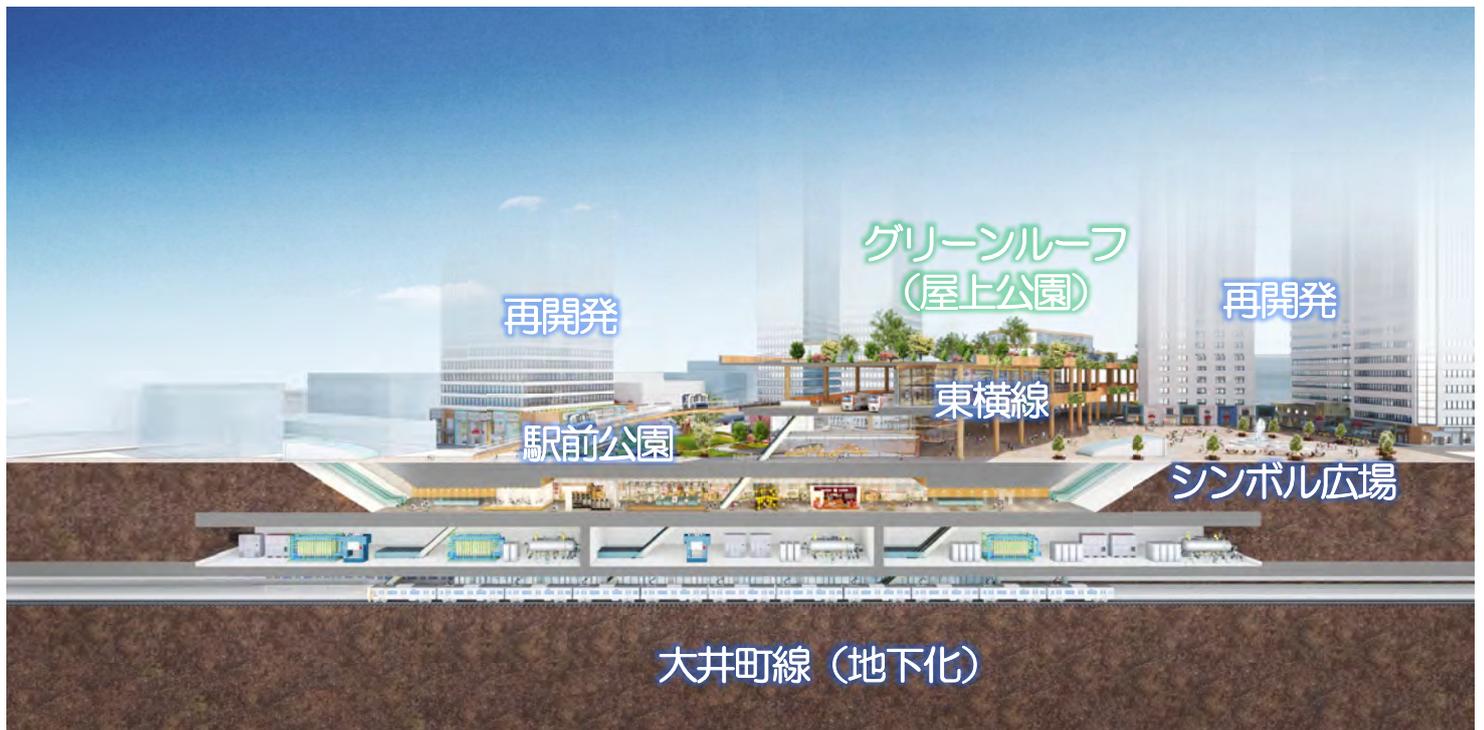
⇒連続立体化と共に、まち全体が緑の丘となる**ウォークブルなまち**

- ・自由が丘はこれまで様々な変化をまちに組み込み、ヒューマンで心地よいまちを形成した。
- ・今、大きなインフラの変化が予感される。自由が丘は怯むことなく、その変化をビルトインし、まち全体が重層・立体的な緑あふれるウォークブルなまちとなり、さらに活性化する。

自由が丘 駅まち空間の提案



鉄道立体化を契機とした新たな駅まち空間の形成



④ 駅とまちの一体化

人中心の空間の拡充
路面店と貫通通路・デッキ接続による
賑わい形成と回遊

⑤ 人の心地よさ

様々な緑の導入
憩い交流スペース

⑥ レジリエンス

エネルギーステーション
雨水貯留槽整備での
防災力向上

世界に誇れる駅まち空間の気運醸成を！

